



イチゴ泥棒

と、そこまで思い出したわたしだったけれど。

口にするのはためらった。

要は、中学受験に失敗して、それをバカにされるのをこわがって、学校から逃げ出した。

まとめてしまえば、それだけのこと。

あらためて言葉にしてみると、どこが深いかわからない、なんだかありふれた話だった。

わかってる。

でも、どうしても行けない。

学校に行こうとすると、恐怖で体が動かなくなる。

自分でもどうしようもなかった。

「——って、別にどうでもいいよね？ わたしは、羽村菜乃葉。ここの住人だよ。だから

ここの庭はわたしのものだよ。」

苦い思い出を心のすみに押しやって言うと、男の子はふうん、とうなった。

「やっぱりあんたが……か。おれは、蒼井真冬。」

やっぱりってどういう意味？

それから、蒼井真冬……真冬？

わたしは、ん？ と首をかしげた。

どこかでその名前、聞いたような……？

あ。

「え、あなた、もしかして、豊穰中学の一年……だったりする？」

入学式で、一日だけ登校したときに聞いたんだ。

出欠をとったとき、ひとりだけお休みの子がいた。

その子が、たしか蒼井真冬。

せっかくの入学式なのに来れなくてかわいそうって思つたのを、おぼえてる。
蒼井くんは、うなずいた。

「それどころか、同じクラスだな。」

「どうやら、予想は当たつたらしい。」

「つてことは、あなたも学校行つてないつてことじゃん。」

言われっぱなしはいやだったから、そう言い返すと、蒼井くんはニツと笑つた。

「おれは今日、体調不良だから。朝、熱があつたんだ。」

えええ？

「思わずじつと観察してしまふ。」

「ただ、どう見てもそんなふうに見えない。元気でしょ。」

「熱があるのに、なんでここに居るの？ 単にサボってるんじゃないの？」

「今は下がったからだ。このご時世、熱があつたら登校ひかえるのが当然だろ。おれは

正当な理由。サボってるのはあんただろ。」

痛いところをつかれてグツとつまる。

うう、なんか、口が達者な子だ。

「――ま、どうでもいいけど。」

わたしが黙ると、蒼井くんは再び野イチゴをつみ始める。

カゴの中には野イチゴの山ができて始めていた。

だ、か、ら！

「その野イチゴ、うちのだよね？？？　ここ、うちの敷地なんだけど。」

「いや、おれの。イチゴをつむのはおれの仕事なの。」

蒼井くんはゆずらない。

どうして！

ムツとしてにらむと、蒼井くんはにらみ返してきた。

「つてかさ、いまさらなんなの。あんたが引越してきてからも、おれ毎日ここに來てたんだけど。」

え、そうなの？

「その苗なえだって、おれが植うえた。」

な、なるほど！

犯人はんじんは蒼井あおいくん？

びっくりしていると、蒼井あおいくんはカゴの中なかを漁あさって、二冊さうのノートを差し出だした。どちらも古ふるくて分厚ぶんあつい。

一冊目さつめのノートの表紙ひょうしには『料理りょうり』と書かいてある。

「これ、あんたのばあちゃんゆいじんの遺言ゆいごん。」

遺言ゆいごん？

って、亡なくなった人ひとが残のこされた人ひとに伝つたえる、さいごの言葉ことばのこと。

つまり、おばあちゃんのこが残のこした言葉ことばだ。

ドキドキしながらページをめくると、そこにはこう書かいてあった。

『この庭にわでできる作物さくもつは、蒼井あおい真冬まふゆが自由じゆうにしてよい。』

えええ？？？ なにこれ。

「で、でもこれ、おばあちゃんかが書かいたかどうかなんてわかんない……。」

と、言いいかけたわたしは、途中とちゆうで口くちを閉とじた。



だつて、おほらかなのびのびしたこの字。

図鑑ずかんを送おくつてくれたときに入はいつていた手紙てがみと同じ字おなじだつた。

おばあちゃんの字じにまちがいない。

「でも、どうしてこれをあなたが持もつてるの。」

蒼井あおいくんは少すこしめんどうくさそうに言いつた。

「ばあちゃん、まちがつて捨てすてられたらいやだからつて。あずかつた。これはあんたに。」

手渡てわたされたのはもう一冊さつのノート。

こちらの表紙ひょうしには『庭造にわづくり』と書かいてある。

大おおきく息いきを吸すつてノートを開ひらく。

最初さいしよのページに書かいてある一文いちぶんを見て、わたしは思おもわず息いきをのんだ。
だつて。

『庭にわとこのノートは、羽村菜乃葉はむらなのはに残のこします。庭にわに残のこした、おばあちゃんの宝物たからものを見みつけてください。』

蒼井^{あおい}くんのノートと対^つになるように書^かかれていたのは、どうやらおばあちゃんからわたしへの遺言^{ゆいごん}のようだった。

「宝物^{たからもの}……ってなに？」

そうつぶやきつつも、わき上^あがったのはとまどいだった。

どうして、わたしに？

だってわたし、おばあちゃんにはしばらく会^あってなかったのに。

ほとんど会^あいに来^こなかつたし、孫^{まご}らしいこと、なにもしてなかったのに。

それなのに、庭^{にわ}を残^{のこ}すって、宝物^{たからもの}を見^みつけろって、一^{いっ}体^{たい}どういうこと？